

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッケ

学名 *Pleurogrammus azonus*

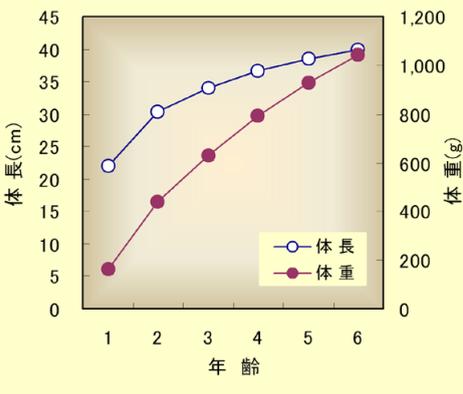
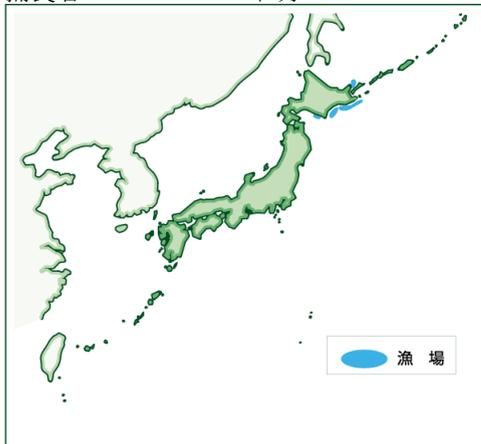
系群名 根室海峡・道東・日高・胆振

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳以上
 成熟開始年齢: 1歳の終わり(一部)、2歳の終わり(大部分)
 産卵期・産卵場: 日高沖や根室海峡、知床半島先端水域では10月中旬～11月中旬
 正確な索餌場は不明、漁場域は、襟裳以西、道東、根室海峡、北方四島周辺水域の水深200m以浅に形成
 索餌期・索餌場:
 食性: 仔魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはヨコエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は様々な種類の動物を捕食
 捕食者: 不明

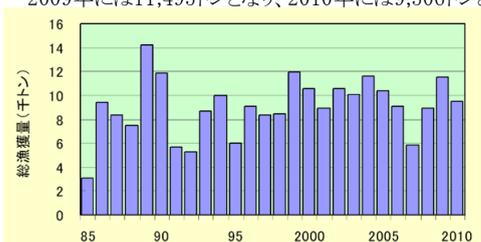


漁業の特徴

北海道根室海峡・道東・日高・胆振海域におけるホッケの漁獲は、刺し網、定置網などの沿岸漁業および沖合底びき網(沖底)によって行われ、総漁獲量の7～9割は沿岸漁業による。海域によって漁業種類は異なり、襟裳以西および道東海域では沖底および刺し網類、根室海峡海域では刺し網および定置網による漁獲が主体となっている。海域別漁獲量は、根室海峡海域で最も多く、根室海峡の沿岸漁獲量が海域全体の漁獲量の5～8割を占める。

漁獲の動向

本海域の漁獲量は(安全操業を除く)、1989年に14,235トンに達した後に減少し、1991～1998年には5千～9千トンで推移したが、1999～2005年は2001年を除き1万トンを上回った。その後は減少して2007年に5,816トンとなったが、2009年には11,495トンとなり、2010年には9,506トンと若干減少した。

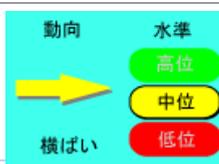


資源評価法

本海域全体において、漁獲量以外の資源量の指標を得ることは容易ではない。さらに漁場は北方四島周辺水域および千島列島水域と接しているが、これらの水域におけるホッケの分布に関する情報が入手できないため、正確な資源評価が困難である。これらのことを踏まえて、近年の総漁獲量の変化から資源動向を判断し、漁獲の大半を占める羅臼海域の定置網類および刺し網の一日一隻あたり漁獲量(CPUE)を判断の参考とした。

資源状態

本海域における過去26年間(1985～2010年)の漁獲量の平均値を50とし、35未満を低位、35以上65未満を中位、65以上を高位と設定した。2010年の漁獲量は9,506トンで水準値は53となったため、資源水準は中位と判断した。また、過去5年間(2006～2010年)の漁獲量は、2007年に減少したが、2009年にかけて増加し、2010年は若干減少した。過去5年間で一定の変動方向は示しておらず、羅臼における定置・刺し網類のCPUEは増加傾向もみられているが、2011年上半期の漁獲量が2010年の同時期と比べて40%程度に留まっていることから、動向は横ばいと判断した。



管理方策

漁獲量の変動が資源動向を反映すると仮定した場合、1996年以降の資源豊度は比較的安定した水準で推移しているものと判断される。一方、当該海域の漁業は沿岸漁業が主体であり、広域にわたり分布・回遊する種であることから、来遊状況によって漁獲量が変動すると考えられる。今後も資源に対して急激な影響を与えることを防ぐため、現行の漁獲努力量を上回らないように調整することが重要である。ABClimitは、過去5年間の平均漁獲量(Cave5-yr)に1.0を乗じた漁獲量とした。ABCtargetは、ABClimitに不確実性を考慮した安全率である0.8を乗じた漁獲量とした。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	9,000トﾝ	1.0Cave5-yr	—	—
ABCtarget	7,200トﾝ	0.8・1.0Cave5-yr	—	—

- 算定されたABCには、「安全操業」による漁獲を含まない

資源評価のまとめ

- 海域全体のCPUEを得ることが困難であるため、漁獲量の変化から資源評価を実施
- 過去26年間の漁獲量の推移から資源水準を、また過去5年間の漁獲量の変化から資源動向を判断
- 羅臼における定置・刺し網類のCPUEを動向判断の参考とした

管理方策のまとめ

- 1996年以降、資源豊度は比較的安定していると考えられるが、2004～2007年に漁獲量が減少し、その後2009年にかけて増加した
- 広域にわたり分布・回遊する種であることから、来遊状況によって漁獲量が変動すると考えられる
- 現在の資源水準を維持するため、漁獲量を近年の水準に保つ

執筆者: 森田晶子・福若雅章

資源評価は毎年更新されます。